ご紹介

アハーン・パンデー

ジャガー・ルクルトが
「The Hour Before」を通じて新しいフレンド・オブ・メゾンを発表

概要：

- **才能豊かで、多分野に精通：**アハーン・パンデーは、映画、ファッション、芸術の各分野で培ってきたフレッシュな視点を提供
- **現代的でありながら地に足のついたスタイル：**アハーン・パンデーのモダンな感性と、ジャガー・ルクルトの控えめな洗練が自然に調和
- **「The Hour Before」での飾らない存在感：**高級時計製造の時代を超えたエレガンスが映画の創造性と融合

ジャガー・ルクルトは、新しいフレンド・オブ・メゾンにアハーン・パンデーを迎えました。インド映画界で今最も注目を集める新進俳優の一人である彼は、スポットライトを浴びるずっと前から舞台裏で着々と経験を積み上げてきました。

このコラボレーションは、ジャガー・ルクルトのインタビューシリーズ「The Hour Before」を通じて発表されました。同シリーズは、クリエイティブな個性を形作ってきた経験や決定的な瞬間を探求するものです。

好奇心と、職人技への深い敬意によって作られた道のり

アハーン・パンデーのスクリーンデビューは突然のように見えたかもしれません。しかし、彼のスクリーンへの道のりはそれより何年も前から始まっていました。俳優としてデビューする前、彼はカメラの後ろ側、つまり映画を制作する側に身を置き、制作のさまざまな側面について経験を積み、独創的な創作ビジョンを支える集団的な職人技を見出していきました。演技で注目を集めるようになるずっと前から、観察と関与を通じて学びを続け、創造的なプロセスを下支えするその分野に対する理解を深めていたのです。

そのときの基盤が、今後も俳優としての姿を形成し続けていくでしょう。映画『Saiyaara』で世界中に知られる存在となったとき、作品の驚異的な成功は規模の面で劇的な変化をもたらしたものの、その視点に変化を及ぼすことはありませんでした。デビュー時の勢い以上に、彼には好奇心旺盛なアーティストとしての一面があり、さまざまな専門知識が結集することで、個々の力を合算した以上

の何かが生み出されることに本能的な敬意を持っています。まさにこの点において、彼の感性はジャガー・ルクルトと自然に共鳴していると言えます。

ジュウ渓谷にあるマニュファクチュール工房でもそれは同じです。時計づくりは集団によって行われています。時計は多くの人の手を経て、何世代にもわたって蓄積されてきたノウハウによって、ようやく完成された姿へとたどり着くのです。個々の専門知識が結集し、ひとつの作品へとつながります。映画制作を多角的な視点から体験することで映画に対する理解を培ってきたアハーン・パンデーにとって、この哲学は特別な意味を持ちます。彼のこれまでの歩みには、ジャガー・ルクルトが深く理解している「時間」との関わりも現れています。決定的な瞬間の裏には、それを実現させた長年の献身的な努力があるのです。

現代的なエレガンスが醸す独特の雰囲気

アハーン・パンデーのスタイルには、クリエイティブな個性と同じくらい直感的な魅力が宿っています。現代的でありながらも地に足がついたその佇まいは、慣習に縛られるというよりは、彼ならではの独自の感覚を自然に理解していることによって得られたものです。彼は、クラシックなテーラードスタイルも、カジュアルなシルエットも、自在に行き来し、そしてそのどちらにも自身の個性を吹き込んでいます。

この控えめな自信が、ジャガー・ルクルトと自然な親和性を生み出しています。ジャガー・ルクルトは長年にわたり、「見せる」ものではなく「個性の表現」としてエレガンスを捉え、その洗練されたデザインと繊細なディテールを通じて真価が伝わるタイムピースを生み出してきました。伝統に深く根ざしながらも、絶えず新たな解釈が加えられたジャガー・ルクルトの作品は、変わり続けるスタイルの潮流を超越し、身に着ける人自身を表現する存在となっています。

アハーン・パンデーの着こなしにも同じ自由が感じられます。彼は決まった美学に固執するのではなく、既に確立された規範を自分なりに解釈し、古典的なものを直感的に現代的なものとして感じさせます。この精神を特に鮮明に体現しているのが、レベルソです。その紛れもないデザインは、世代を超えて愛され続けながらも、生来の個性的な魅力を失うことなく、まさにアイコンとしての存在感を放っています。

アハーン・パンデーにとっても、ジャガー・ルクルトにとっても、真のスタイルとは決して押し付けられるものではありません。その人の個性、自信、そして他とは一線を画す独自の視点を通じて、自然とにじみ出てくるものです。

***THE HOUR BEFORE*：職人技が個性を引き出す場所**

ジャガー・ルクルトは、「The Hour Before」を通じてアハーン・パンデーとのコラボレーションを発表しました。これは、アハーン・パンデーが自身の歩みを振り返りながら、レベルソのケース組み立て作業に取り組む様子を収めた、プライベート感あふれるインタビュー形式のコンテンツです。対話は画面の外にいるインタビュアーによって進行され、ジャガー・ルクルトの世界とアハーン・パンデーの個人的な体験の間を行き来しながら、繊細なリズムの中で展開されます。話題は時計づくりの世界から始まり、やがて彼の価値観や思い出、世界観へと自然に広がり、深く思索に満ちた、地に足のついた対話が繰り広げられます。

「The Hour Before」は単なるインタビューにとどまりません。時計づくりの緻密な技術を通じてその人物の個性をそっと垣間見るような、つながりのひとときとして構想されています。この形式をとることで、鍛錬、反復、チームワーク、そして時を経た進歩の追求という、時計づくりの技術とアーティストの生き方との間にある共通点が浮き彫りになります。

自然体で飾らない映像を通して綴られるこのエピソードは、アハーン・パンデーの寛容な暖かさと思慮深く誠実な姿を捉えており、スポットライトには映らない創作精神を窺い知ることのできる貴重な機会となっています。

「アハーン・パンデーをジャガー・ルクルトのファミリーに迎えることができて光栄です」と、ジャガー・ルクルト CEO のジェローム・ランベールは述べています。「アハーンは、好奇心と目的意識、そして絶えず進化を求める強い姿勢によって形作られた、独自の感性を体現した人物です。彼の歩みは、『卓越性は、献身と精度、そして自らの職人技への揺るぎない情熱を通じて時間をかけて培われる』というジャガー・ルクルトの根底にある信念をまさに体現しています。『The Hour Before』を通じて、私たちはこの共通の哲学と、ウォッチメイキングの取り組みの核となる卓越性の静かなる追求を称えます」。

このコラボレーションは、自分らしさ、調和、そして専門技術への深い敬意を大事にする人々との、ジャガー・ルクルトの継続的な取り組みを反映しています。

アハーン・パンデーについて

アハーン・パンデーは、現在、インド映画界で最も注目される、才能あふれる新世代の一人です。インド映画史上最高の興行収入を記録したラブストーリー『Saiyaara』（2025 年）で鮮烈なデビューを果たした彼は、瞬く間にボリウッド新時代の象徴的存在としてスターダムを駆け上がりました。アディティヤ・チョープラーのもと、YRF（ヤシュ・ラージ・フィルムズ）で 7 年以上にわたって研鑽を積んだアハーンは、銀幕での存在感と、独特の現代的感性を兼ね備えています。制作スタッフとして『The Railway Men』、『Mardaani 2』などの作品に携わってきた経験が、ストーリーテリングや映画制作に対する洗練された理解を育んできました。彼の影響力は、ラグジュアリーやファッション、文化の世界へとおのずと広がり、名だたるブランドとの提携も実現しています。アリ・アッバス・ザファールやモヒット・スリといった高名な映画監督たちとタッグを組んだ作品を通じて、アハーンは、熱意やマルチな能力、そして現代的なスター性に象徴されるキャリアを築き続けています。彼の関心は映画以外にも、音楽、ファッション、アート、アニメ、e スポーツなど多岐にわたり、世界中の次世代の心に響くクリエイティブなアイデンティティを体現しています。

「The Hour Before」について

「The Hour Before」は、ジャガー・ルクルトによるプライベートインタビューシリーズで、独自の歩みを形成するに至った、あまり知られていない瞬間を掘り下げます。卓越性、創造性、こだわりというジャガー・ルクルトと同じ価値観を共有する様々なエンターテインメント分野のアーティスト、歌手、ミュージシャン、俳優、スポーツ選手らをゲストに招き、成功の裏側にある、静かなたゆまぬ努力を浮き彫りにします。各エピソードでは、ゲストのキャリアにおける決定的な転機を、その直前の瞬間へと遡って振り返ります。それは、誰の目にも触れない、準備や内省、そして決意に満ちた、人知れぬ時間です。親密な対話と、時計製造のサヴォアフェールとの繊細な共通点を通じて、「*The Hour Before*」は、ジャガー・ルクルトの核心にある信念――卓越性は決して偶然の産物ではない――を探求します。本シリーズは、自分らしさを大切にし、誠実で、控えめな姿勢を持ち、情熱、自己研鑽、そして揺るぎない献身によって功績を築き上げた才能あふれる人物について、独自の視点で掘り下げます。

ジャガー・ルクルト - ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™

1833 年以来、ジャガー・ルクルトは、革新性と創造性への抑えきれない渇望に導かれ、故郷ジュウ渓谷の平穏な自然環境からインスピレーションを得て、複雑機構への熟練した技術とその精度で際立った存在となっています。ウォッチメーカーの中のウォッチメーカー™として知られるマニュファクチュール工房は、1,400 を超えるキャリバーの制作と 430 以上の特許を通して、その絶え間ない革新の精神を表現してきました。ジャガー・ルクルトの時計職人たちは、190 年以上にわたる蓄積された専門知識を駆使して、最先端の精密なメカニズムの設計、製造、仕上げ、装飾を行い、何世紀にもわたるノウハウと情熱を融合させ、過去と未来をつないでいます。時代を超え、常に時と共にあります。82 の工房、108 の職人技、235 の技法（うち 69 は独自の技法）を結集したマニュファクチュール工房は、その技巧に、デザインの美しさと独特で控え目な洗練とを組み合わせ、高級時計に息吹を吹き込んでいます。